



出の山のホタルを 20年以上見守り続ける

ながい あつし
永井 彪さん(90)

良い仲間との出会いで私の人生ができています。
いつまでも自然なままの出の山を守りたい。

市内外から多くの観光客が訪れる「出の山ホタル恋まつり」。その影でホタルを守る活動をしている人がいる。永井彪さん、90歳。

ホタルのみならず、多様な昆虫の調査をおこなっている永井さんは真方出身。市内の小中学校を卒業後、専門学校を経て、高校の理科の教員となった。

当時は、昆虫よりも専門学校で専攻していた植物に興味があった。ところが、ある一人の蝶に詳しい生徒と話しをするうちに昆虫の世界に惹かれていった。「私にとって最初の昆虫の先生は、その生徒でした」。

以後、教員として県内を異動しながら、その地域の昆虫を調べるようになり、その中で一緒に調査をする仲間とも出会えた。

教員を退職後、出の山ホ

タルの調査研究をしている仲間へ手伝ってほしいと声をかけられた。それから20数年、ホタルの生態調査などに携わっている。

雪の積もる2月に川の中で幼虫の調査をすることもあった。気温・水温・湿度を毎日観測することもあった。それでも、時期がきて無事にホタルが舞う姿を見ることが全てが報われるという。

出の山のホタルは、他の地域のホタルより少し小さいという特徴がある。出の山の環境が長い年月をかけて、出の山のホタルを育ててきた。だからこそ、数が減少する年があっても、他所からホタルを持ってきて養殖で増やすことをしない。

「周辺の環境整備には気を配るが、あくまでホタルは自然なままの姿を見守り

たい」と力強く語る永井さん。

「出の山の環境は多く人の努力や想いで保たれています。そういった経緯を知ったうえで、ホタルを觀賞してもらえたら嬉しい。みんなできいな水を保つことがホタルを守ることに繋がります」とも話す。

最近では、新しい昆虫にも興味があり調査や研究を行っている永井さん。その探求心と情熱は尽きることはない。



趣味のベタンクでも、多くの仲間にも恵まれて県協会の理事長を現役に務める